

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人さつき会

社会福祉法人さつき会 事業所一覧

	<p>玄海はまゆう学園 福岡県宗像市江口 6 8</p> <hr/> <p>施設入所支援 30 名 生活介護 40 名</p>
	<p>はまゆうワークセンター宗像 福岡県宗像市自由ヶ丘南 3 丁目 32 番地</p> <hr/> <p>就労継続支援 B 型 60 名</p>
	<p>さつき学院 宗像キャンパス 福岡県宗像市自由ヶ丘南 3-30-4</p> <hr/> <p>自立訓練（生活訓練） 20 名</p>
	<p>はまゆうワークセンター自由ヶ丘 福岡県宗像市自由ヶ丘 3-16-1</p> <hr/> <p>就労移行支援 10 名 就労継続支援 B 型 10 名</p>
	<p>はまゆうワークセンター大野城 福岡県大野城市大城 5-28-3</p> <hr/> <p>就労継続支援 B 型 50 名 就労継続支援 A 型 10 名</p>
	<p>相談支援センターはまゆう 福岡県大野城市大城 5-28-3</p> <hr/> <p>地域移行支援／地域定着支援</p>



パルテールはまゆう

福岡県大野城市大城 5-28-9

共同生活援助①	5 名	共同生活援助②	5 名
短期入所（併設型）	2 名		



障がい児者地域生活支援センターはまゆう

福岡県宗像市自由ヶ丘南 3 丁目 32 番地

特定相談支援／障害児相談支援
地域移行支援／地域定着支援



障害者就業・生活支援センターはまゆう

福岡県宗像市田熊 5-5-2

障がいのある方の就業面の支援及び就業に伴う生活面の支援



宗像市障害児通所支援事業所 げんきっこくらぶ ほっぷ

福岡県宗像市久原 370 番地 1

放課後等デイサービス(重症心身障害児以外)	10 名
放課後等デイサービス(重症心身障害児)	5 名
児童発達支援（重症心身障害児）	5 名



げんきっこくらぶ じゃんぷ

福岡県宗像市自由ヶ丘 3-16-1

放課後等デイサービス 10 名



げんきっこくらぶ るーつ

福岡県宗像市日の里 5 丁目 3 番 98 ひのさと 48 202 号室

児童発達支援	10 名
保育所等訪問支援	

ライフアップはまゆう



シーサイドヒル

福岡県宗像市田野字正吹 309-1

共同生活援助 7 名
短期入所(併設型) 1 名



フローラ

福岡県宗像市陵巖寺 4-9-20

共同生活援助 7 名
短期入所(空床型) 1 名



リーベル

福岡県宗像市陵巖寺 4-9-20

共同生活援助 7 名
(うち、サテライト型住居 1 名)
短期入所(併設型) 1 名



サニーヒル

福岡県宗像市田野字正吹 310

共同生活援助 7 名
短期入所(併設型) 1 名

玄海はまゆう学園

令和3年度事業報告書

1 玄海はまゆう学園

令和3年度は、昨年同様コロナに振り回される1年であった。いろいろな面で規制等は緩和されたが、オミクロン株の影響で幼児・児童などへの感染が広まった関係で、子どもを抱える職員の家庭での感染が数件見られた。しかし、職員も利用者もワクチン接種を3回実施し、園内での感染対策を充分に行っていることもあり、園内での発生はなかった。今後とも、定期的なPCR検査を実施し、基本中の基本を守りながらコロナ対策に努めていきたい。また、園外でのウォーキングも昨年度は控えていたが、コロナの規制緩和に伴いさつき松原やふれあいの森などで実施し、生活時間には近場へドライブなども行った。

利用者の洗濯物は、どろんこプレハブで業務用洗濯機を使って洗濯専任職員が洗濯業務を行っていたが、ワーク宗像に委託して実施した。

後期高齢者の利用者は、年々日常生活動作が低下しており、現状車いすでの生活であり、本園での支援が厳しい状況となっているため、高齢者施設への移行を年度初めに検討し地域包括支援センターと連携をとりながら介護認定をとり、9月に特別養護老人ホームの入所となる。

利用者の支援では、事業所の目的である「利用者の安心・安全・楽しみ」を提供することに努めるとともに、誰もが同じ視点をもって業務ができるよう報告・連絡・相談の徹底とケースカンファレンスの充実を図った。

2 福祉サービス提供

(1) 施設入所

○入所：30名（定員30名）

○平均年齢 39.37歳 平均障害区分 4.6

○入浴、排泄、食事、健康管理等の生活支援を行う。自分でできることは自分で取り組むように促し、利用者ができる方法を考えた支援を行う。高齢の利用者は、介護保険への移行等も視野に入れながら今後の高齢化や入院時の対応など保護者や各機関と連携体制を構築していく必要がある。

(2) 生活介護（日中活動）

○利用者数：入所者30名 通所者12名 計42名（定員40名）

① 日中活動

各作業活動：2班3グループに分かれ、日中活動支援を行う。利用者がやりがいや楽しみを持って活動に参加できるよう、仕事だけではなくレクリエーションやウォーキングも実施する。仕事と余暇のメリハリをつけることで、生活リズムの安定や利用者の生きがいややりがいに繋げている。

【どろんこ班】利用者21名

農作業、缶つぶし作業を行う。農作業では、毎年芋の植え付けをして収穫していたが、小林酒造に焼酎の余剰があるということで、今年度は栽培を行っていない。そのため、畑では夏野菜や食用の芋を栽培し、厨房で調理して利用者で食した。

宗像地域のホテル等から空き缶を回収し、分別・潰し作業を行いリサイクル工場に出荷し、アルミ391,050円(2,210kg)、スチール28,825円(700g)合計419,875円の収益を得る。また今年度からは、毎月第2・第4火曜日に本法人の各事業所を回り、缶回収を行った。

【なごみ班】利用者 計21名

○軽作業グループ 利用者13名

ビーズでアクセサリ作りを行う。ネックレスなど出来た商品を『道の駅むなかた』と『ハートループ（宗像市役所内売店）』に納品して、17,270円の売り上げがあった。

○療育グループ 利用者8名

主に療育活動に取り組む。健康・衛生の維持を重点とし、ウォーキングや日常生活訓練、機能維持訓練、ミュージックケアを行うことで、情緒安定に繋げている。

- ② 年間行事：季節に合わせた行事を予定していたが、コロナの影響で計画どおり実施できないものもあった。

4月22日(木)	お花見昼食会(園内レク)	10月21日(木)	THANK YOU 文化祭(園内レク) 今年度も利用者のみで行い、スライドショーと入浴剤作成を行う
5月4日(火)	ワックス掛け(職員) 芦屋方面のドライブ(利用者)	11月13日(土)	パレットピクニック(ほたるの郷) 芋の販売を行う
		11月18日(木)	自由外出:シティボウル(どろんこ班)
		11月25日(木)	自由外出:志賀島散策(なごみ班)
5月20日(木)	運動レクリエーション(ゆうゆうぷらご):中止。保護者から弁当の差し入れあり	12月16日(木)	餅つき会(園庭)
		12月21日(水)	福岡県定例指導監査・実地指導
7月7日(水)	七夕会:七夕飾りづくり(園内レク)	1月6日(木)	新年会:新年幕の内弁当 河東天満宮初詣(各班ごとに参る)
8月19日(木)	BBQとプール遊び(園内レク)	2月23日(水)	法人全体会(オンライン)
9月7日(火)	第1回定期健康健診	3月1日(火)	第2回定期健康健診
9月16日(木)	自由外出:いのちのたび博物館(なごみ班)	3月24日(木)	自由外出:ピクニカ共和国
9月22日(水)	自由外出:いのちのたび博物館(どろんこ班)		

- ・「ふろの日」:毎月26日に浴室を四季折々に演出して入浴を楽しんだ。
- ・「誕生会」:「ふろの日」に合わせて、厨房で作ったおやつを午後のおやつの時間に食べながら誕生者を祝った。
- ・池野地区夏祭り・池野地区文化祭:例年参加しているが、コロナの影響で中止となる。

- ③ ボランティア:地域の方々の協力を得ながら、利用者がより充実した生活を送れることを目的としている。

○音楽療法(1人):毎月第2・4水曜日 15:00~16:00

コロナの影響で緊急事態宣言中は中止となる。

○3B体操:コロナの影響で今年度は中止となる。

(3) 短期入所・日中一時サービス

- ① 短期入所支援:宿泊を伴う日常生活支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
利用延べ人数	55	47	47	50	68	47	52	47	50	53	39	50	50.4

- ② 日中一時支援:日中の日常生活支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
利用延べ人数	10	6	4	12	15	5	8	10	9	3	2	5	7.4

3 人材育成

① 会議の実施

毎月1回、職員会議と班会議、リーダー会議を開催し、職員間の情報共有や課題抽出・ケース検討を行う。

② 内部研修の実施

職員の資質向上、意識向上を目的に内部研修及びケースカンファレンスを実施する。

4月23日(金)	風水害について
5月28日(金)	ケース検討会
6月25日(金)	てんかん発作について
7月29日(木)、30日(金)	救急救命講習会(パートも行う)
8月27日(金)	中止
9月24日(金)	個別支援計画作成について
10月29日(金)	個別支援計画作成について
11月26日(金)	個別支援計画作成について
12月24日(金)	権利擁護：延期
1月28日(金)	権利擁護：職員コロナ感染のため中止
2月25日(金)	個別支援計画作成
3月25日(金)	マニュアルの見直し

4 保護者会

本人・家族が安心できる学園にするため例年は、保護者会と施設がしっかりと情報共有することに努めているが、コロナの影響で定例会は実施せず役員会を5回開催し情報共有を行った。また、保護者会と連携して行っている活動は、すべて中止となる。

「はまゆう喫茶」が中止になったことなどから、定期的にアイスや果物、お菓子、ジュースなどの提供があった。

年度末には、感染予防対策のために自動消毒・非接触型体表温検知器ディッシャー(3台)、自動ハンドソープディスペンサー(3台)、次亜塩素酸対応超音波加湿器(4台)を寄贈していただく。

はまゆうワークセンター宗像
令和3年度事業報告書

1. 実施サービス

令和3年度利用実績(3月末実績)	
就労継続支援B型	49名/60名
利用者数(総数)	49名/60名

2. 就労支援収益

	令和3年度実績	令和2年度実績
外作業	4,521,674	4,411,925
施設外就労	4,138,750	4,398,110
食品加工	4,459,876	3,711,837
室内作業	3,707,310	2,574,931
売店事業	11,062,335	9,619,314
合計	(↑) 27,889,945	24,716,117
平均工賃/月	(↑) 17,218	12,855

3. 事業別

(1) 就労継続支援B型

① 外作業

- ・新たに宗像緑地建設(株)から作業を請け負うこととなり、11月から3月にかけて除草や側溝清掃などの作業を行った。R4年度も継続することが決まっている。
- ・夏は猛暑の中での作業となった。熱中症の危険性が高まったため、8月以降は休養日を作るなど対策を行った。

② 室内作業

- ・はまゆう学園の洗濯を請け負うこととなり、6月より作業を開始した。今まで事業所内での内職作業に限られていた利用者も参加できている。収益も安定しており、室内作業部門の年間収益の向上にもつながった。
- ・新規で8月にプログレ(釣り具のパッケージ作業)、11月に西部技研(ネジ組み立て)の作業を開始した。不定期であるため、他作業と調整の上取り組んでいる。
- ・R2年度に壁設置工事を行った第3・第4作業室を活用し、少人数または個別対応が可能となった。情緒の乱れがある方への対応や利用者の相性による配置変更等に応じ、有効に活用できている。

③ 食品加工

- ・10月 東京に拠点があるスイートハートプロジェクトからお菓子の注文を受けた。その後も継続して注文をいただき毎月発送している。その他にも遠方からのギフト注文を受けることが何度かあり、ワークセンターのお菓子を広く知っていただけたこと、味にも高い評価をいただけたことで、利用者、職員とも自信となり、意欲向上にもつながった。
- ・赤浜姫と黒浜姫のパッケージリニューアルを行った。ふるさと納税の返礼品として出品するため準備をすすめている。

④ 施設外就労（リサイクル・農業）

【リサイクル】

- ・9月上旬リサイクル工場の従業員がコロナに感染されたため、予定していた作業が1週間休止となった。また、2月には利用者に陽性者が出たため2日間作業を自粛した。
- ・新たに挑戦した利用者も正規メンバーとして定着しており、個々のさらなるスキル向上を目指したい。また、施設外で仕事をするという自覚のもと、外部の方と関わる中で社会性の向上にもつながるよう支援を継続していく。

【農業】

- ・水菜の生育不良とコロナの影響により6月下旬から9月中旬まで作業が休止となった。その後は再開し、平日午前(利用者4名・職員1名)の作業を継続している。
- ・1月に管理者と主任が出向先の安武農園を訪問し、利用者の現状や作業の進め方等について話し合いを行った。施設外就労を受け入れる側として、障害者支援(声かけの仕方など)について理解を深めようと努力してくださっていることが分かった。

⑤ 売店事業

- ・「月間売り上げ100万円を年度中に1回達成する」という目標を4月に達成した。6月と3月にも100万円以上を売り上げ、年間売り上げも目標を大きく上回った。
- ・8月 オープン10周年のイベントを3日間にわたり行った。くじ引きや各事業所限定セットの販売を行い盛況であった。

4. 理念実現プラン

【利用者のために】

- ・新たにクラブ活動を導入した。園芸、スポーツ、芸術、カラオケの4つの中から希望するクラブに所属してもらい、5月、8月、10月、1月、3月(いずれも土曜日)に合計5回の活動を行った。これまでにない新しい企画もあり、楽しんでいただくことができた。R4年度はカラオケクラブを「音楽クラブ」に名称変更し、活動の幅を広げる予定である。

4月	レクレーション(海の中道海浜公園)	10月	クラブ活動
5月	オンラインさつき祭り・クラブ活動	11月	日帰り旅行(八女市・さつき学院合同)
6月	—	12月	クリスマス会
7月	グループ活動	1月	初詣(宮地獄神社)・クラブ活動
8月	クラブ活動	2月	グループ活動
9月	秋祭り(さつき学院合同)	3月	クラブ活動

【職員のために】

- ・初めての試みとして個人ノー残業デーを導入し、7月～8月にかけて希望を聞き実施した。全体では11月にノー残業デーを実施した。
- ・定期的に職員会議を実施し、情報共有や課題があれば話し合いを行った。また、ケース会議では利用者の現状を整理し、支援方法の統一を図った。ケース会議後の経過を追うことが十分ではなかったことが課題として残った。

【地域のために】

- ・5・6月 日赤看護大学オンラインカンファレンス(感染防止のため実習見合わせに伴い内容変更)
- ・8月 九州大谷短期大学保育実習
- ・11月 古賀特別支援学校現場実習
- ・介護等体験事業、ワクワクWORK、自由ヶ丘南夏祭りは昨年度に続き中止となった。

さつき学院 宗像キャンパス 令和3年度 事業報告書

1, 令和3年度利用者数(令和4年3月31日時点)

さつき学院 宗像キャンパス：自立訓練（生活訓練）2年（就労移行支援事業2年※開校予定）

自立訓練（生活訓練）：登録者数 12名（内早期入学者4名含） 就労移行事業：令和5年4月開校予定

宗像市内利用者：8名 糟屋郡：1名 福津市：2名 遠賀郡：1名【出身校：古賀特別支援学校12名】

2, 事業所の目的

毎日をもっと豊かに、社会で活躍出来る人材の育成をモットーに、社会人基礎力の形成、個々の専門力を伸ばす。※社会人基礎力⇒①気付く力 ②挑戦する力 ③コミュニケーション力

2, 目的達成の為にプログラム(7科目)

① 一般教養	時計/数字の理解/計算/カレンダー/曜日感覚/集中力/金銭学習 など
② ヘルスケア	運動/食育/衛生管理/ADL トレーニング など
③ コミュニケーション	SST/言葉遣い/聞く力・姿勢/グループワーク/あいさつ など
④ 就労訓練	社会人マナー(礼儀作法)/身だしなみ/就労意欲向上に向けて/作業学習 など
⑤ フィールドワーク	体験型活動/社会経験の向上/買い物学習/調理実習/作業実習 /交通実習 など
⑥ 専門	アンダーコントロール/創作活動/技術/家庭科/パソコン技術 など
⑦ 余暇活動	外出活動/レクリエーション/イベントプログラム など

3, 年間スケジュール

4月	5月	6月
<ul style="list-style-type: none"> 入学式 (令和3年2月に内定式実施) パレットピクニックの実施 (販売体験の実施) 職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> さつき祭り(オンライン) 新入生歓迎会 職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 中間テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) 職員会議の実施
7月	8月	9月
<ul style="list-style-type: none"> 施設外訓練 宗像緑地建設株式会社様実習の開始 保育実習生の受け入れ 職員会議の実施 宿泊合宿 (まん延防止等重点措置のため中止) 余暇活動(そうめん昼食) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習生の受け入れ 一般大学との交流イベントの実施 (福岡女子大学見学ツアーの実施) 職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 期末テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) 避難訓練の実施 秋祭り(ワーク宗像合同) 他事業所での実習実施 (2期生：法人内就労事業所 1期生：法人内外就労事業所) 健康診断の実施 職員会議の実施
10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> 職員会議の実施 パソコン教室の見学・体験 交通学習の実施 他事業所での実習実施 (2期生：法人内就労事業所 1期生：法人内外就労事業所) 	<ul style="list-style-type: none"> 八女市日帰り旅行 (ワーク宗像合同) パレットピクニックの実施 (販売体験の実施) 古賀特別支援学校実習生の受け入れ 職員会議の実施 他事業所での実習実施 (1期生：法人内外就労事業所) 	<ul style="list-style-type: none"> 忘年会 (午前：テーブルマナーの座学実施) 中間テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) 親睦会の実施(保護者会) 虐待研修の実施 職員会議の実施

1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市食生活改善推進会との料理教室の実施 (他事業所合同活動) ・職員会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般大学との交流イベントの実施 (九州産業大学見学ツアーの実施) ・避難訓練の実施 ・職員会議の実施 ・来年度入学者向けの内定式実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴活動の実施 ・期末テストの実施 (体力テスト・筆記テスト) ・卒業イベントの実施 ・職員会議の実施 ・保護者会の実施 (新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

3. 実施報告

【利用者のために】

《Off-JT（施設外実習）の実施》

- ・地域の企業（NPO法人カラフル・パレット）との連携を強化し、Off-JT（施設外実習）を実施。果樹園での作業にてキウイフルーツなどを栽培。また加工品（梅干し・漬物など）の生産と共に地元の直売所で販売し、「生産⇒販売⇒対価を得る」の一連の流れを体験することで就労意欲に繋げることが出来た。またNPO法人カラフル・パレット主催のイベント（パレット・ピクニック）でも生産物の販売を行い意欲向上に繋げることができた。

更に施設外実習先の企業（宗像緑地建設株式会社様）が増え、幅広い作業の練習と将来の就職先の選択肢を増やすことに繋がった。

《中間テスト・学期末テストの実施》

- ・中間テスト（6月・12月）学期末テスト（9月・3月）を実施。目的としては、普段の学びをより定着させるため、今後の就職の面接などに対する緊張感を定期的に経験してもらう為実施。

（テスト実施一週間前に事前課題を配布し、自発的に課題に取り組む環境を提供）

体力テストに関しては、文部科学省規定の体力テストに沿って実施（体力の維持、向上を図る為）。

《他事業所実習、体験の実施》

- ・保護者や利用者から希望を聞き、希望先の就労事業所への実習や体験を実施。将来を見据え、働くイメージや自身の通所イメージが持てるようになるため。

【職員のために】

《事業所運営ノウハウの蓄積》

- ・事業所運営も2年目を終え、2年間の活動プログラム（座学内容等）を蓄積することで、年間を通しての活動内容の見通しや、保護者や利用者のニーズに則した内容を作り上げることに繋がった。

《法人内の他事業所との連携強化》

- ・法人内の各事業所との繋がりを持つことで職員間の交流や助言を受ける機会を作ることができた。当事業所だけではできない作業を経験させてもらうことで、職員の支援の幅を広げることができた。

《他企業との関わり》

- ・NPO法人カラフルパレット・宗像緑地建設株式会社との繋がりを持ち、他企業の職員の方々と接することで見識を広げ職員の自己研鑽に繋げることができた。

【社会のために】

《新しい地域資源の創設》

- ・新しい地域資源（地域初の福祉型学校開校）を作り出すことで、地域の障がいを持つ方の将来の選択肢を広げることが出来た。また今年度初の卒業生を2名出し社会で活躍できる人材の育成につなげることが出来た。

さつき学院1期生の進路先（法人内就労事業所1名 法人外A型事業所1名 さつき学院基礎課程延長 4名）

《ノーマライゼーションの実現に繋げる活動》

- ・地域資源（宗像ユリックス内の図書館、地域の直売所での納品）を積極的に活用することでノーマライゼーションの実現に繋げる活動を行うことができた。

- ・様々なイベント（パレット・ピクニックなど）に積極的に参加し販売体験などを通して、地域に住む障がいを持っている人と持たない人との交流の場を作ることができた。

《障がい福祉分野の認知度の向上》

- ・保育実習生の受け入れを行うことで、障がい福祉に対する知識等を伝える機会となり、興味・関心を持ってもらうことに繋がった。

はまゆうワークセンター自由ヶ丘 令和3年度事業報告書

1、実施サービス

令和3年度利用実績(3月末実績)	
就労移行支援	3名/10名
就労継続支援B型	8名/10名
就労定着支援	10名/20名
利用者数(総数)	21名

《事業所状況増減の推移》

	令和3年度末実績	令和2年度末実績
利用登録者数	21名	14名
平均月利用者数	9.9名	13.3名
就職・内定者数	6名	5名
平均工賃/月	(↑) 4,349円	3,968円

《就職者内訳》

A氏…宗像市の保育園にて清掃業務→継続中 / B氏…新宮町の菓子製造工場にて製造業務→継続中
C氏…福津市の企業にて事務業務→継続中 / D氏…宗像市の運送会社にて配送備業務→継続中
E氏…新宮町の医薬品販売店にて商品管理業務→継続中 / F氏…宗像市の食品工場にて製造業務→継続中

《新規利用者・退所利用者内訳》

新規利用者 移行1名、B型0名、定着6名
退所利用者 移行0名、B型0名、定着0名

2、事業について

・体験・見学・実習の受け入れ

体験・見学件数…10名
就労アセスメント…1名
特別支援学校・普通高校実習件数…2名 内訳：遠賀高校1名・直方特別支援学校1名

・就職活動

実習件数…7件
実習先…事務業務、清掃業務、配送業務、商品管理業務、製造業務

・法人内事業所との連携

自由ヶ丘の訓練や利用者との関わりを持つ経験を提供。

事業所	内容
はまゆうワークセンター宗像	施設外訓練の体験 ※スーパーでの店内業務7月
げんきっこくらぶ じゃんぷ	施設内・施設外訓練の体験
さつき学院 宗像キャンパス	施設内・施設外訓練の体験

3、理念実現プラン

<利用者のために>

- 事業所内訓練…内職(手袋チェック、釣り具の箱入れ、シール貼り、縫物)
オフィスワーク
- 創作活動…貼り絵、リースづくり、ロールペーパー、お雛様づくり
折り鶴アート、スクラッチアート
- 事業所外訓練…スーパーにて商品管理、除草作業、制服袋入れ作業
宗像市役所にて封筒開封作業、いちごポット土入れ作業
- 就職活動…求人検索、個別の企業実習
- 感染対策を行いながらの余暇活動
 - 4. 5. 8月…事業所内でスクリーンを活用した映画鑑賞
 - 8月…糸島日帰り旅行
 - 9月…ホットプレートを使用した調理実習
 - 10月…福岡市動植物園
 - 12月…下関日帰り旅行
 - 1月…新年会

【工賃向上に向けての取り組み】

- 単発・短期的な仕事を受注…いちごポット土入れ作業(JA) 宗像市役所にて開封作業
- 法人内事業所との共同受注(ワーク宗像を窓口)…釣り具の箱入れ、シール貼り
- 施設外訓練の導入

◇除草作業(宗像緑地建設)

宗像緑地建設よりなまずの郷とふれあいの森の除草作業の業務委託を受ける

◇制服袋入れ作業(おおすみ制服)

株式会社おおすみ制服より制服の袋入れや畳作業の業務委託を受ける

【売り上げ比較】令和2年度…413,949

令和3年度…705,164 (前年度より+291,215)

<職員のために>

○支援の質の向上の為、就労支援向けの研修に参加

11/12 宗像市就労部会オンライン研修

<地域のために>

○トヨタ自動車九州株式会社の方との取り組み

現在、新型コロナウイルスの影響により当面休止。再開時期は未定。

<今後について>

就職者については今後も各関係機関と連携を行いながら定着支援を行っていく。就労継続支援B型においては訓練の中で就労に必要なスキルアップを図り本人の意思を確認しながら就職活動を検討・継続していく必要がある。また、利用者を確保するための営業が欠かせない。

施設内外の作業が増え収入も上がっており、今後これを維持していくこと及び就労移行支援利用者への工賃の支払いなどが課題となる。

はまゆうワークセンター大野城 令和3年度 事業報告書

1,実施サービス

令和元年度利用実績(3月末実績)	
就労継続支援 A 型	0名/10名
就労継続支援 B 型	52名/50名
利用者数(総数)	52名/60名

2,就労支援収益

	令和3年度実績	令和2年度実績
食品(肉まん・委託)	6,634,009	7,816,036
軽作業	1,533,646	1,754,248
施設外作業	4,343,474	4,376,744
合計	(↓) 12,511,129	13,947,028
平均工賃	(↓) 8,616	9,291

3,事業別

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、すべての事業において大きく影響を受けた。

①食品(肉まん・委託) 事業 (利用者数：25名)

- ・引き続き豚まん・鳥まん・ぼたんまん(猪)・カレーまんの製造を行った。
- ・イベントが軒並み中止となり、イベント販売での売り上げが激減した。
- ・新規の依頼として、甘夏ゼリーの製造依頼、もつ鍋セットの製造依頼があった。

②軽作業事業 (利用者数：10名)

- ・軽作業の利用者はできる作業に限られる方が多く、作業の提供がとても難しかった。
- ・缶バッジの売上が令和2年度から比べて75%と大きく減少した。

④施設外就労事業 (利用者数：17名)

・(株)日商アルミ、(株)新日本金属2社に出向いていたが、(株)新日本金属は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けて、作業日がほとんどないことが続いたため10月で一旦委託契約を終了した。

4,理念実現プラン

<利用者のために>

◆行事の実施

新型コロナウイルス感染症の感染対策に取り組むため、ウォークラリーなど屋外にて人との距離が保てる行事を中心に行った。その際、筑紫女学園大学からボランティアの方に参加していただいた。

◆当事者会(すまいる会)の取り組み

利用者全体で集まって話し合いの機会を設けることはできなかったが、少人数ごとの話し合いの場を設けた。

◆グループ活動

一人ひとりの選択や個性を尊重し、選択できる活動内容を提案した(創作・スポーツ・ミュージック)。

<職員のために>

◆研修の実施

パート職員も含めてスキルアップをはかるために研修を実施。下記の通り実施した。

実施月	内容
5月26日	支援者としての振り返り(バイスティックの7原則)①
6月23日	緊急時送迎ルートの訓練
7月28日	支援者としての振り返り(バイスティックの7原則)②
9月29日	野球ポジショニングゲーム(職員間のコミュニケーション訓練)
10月27日	ちょっと対応に困る人の支援方法について学ぶ(『トラブル対応ワークブック』より)
11月25日	職員同士で互いの持ち味を活かそう(『持ち味カード』)
1月27日	権利環境委員会より「権利擁護研修」
2月24日	次年度に向けて
3月24日	令和4年度事業計画について

<地域のために>

地域の行事(大城納涼祭り・かまぶた区運動会等)は中止。

地元小学校との交流(4年生の福祉の授業)はオンラインにて行った。

相談支援センターはまゆう（大野城地区相談支援事業所）

令和3年度 事業報告書

1. 取り組み

- サービス等利用計画作成、モニタリングのための、アセスメント（ご自宅訪問）・担当者会議の開催・事業所訪問。
- コロナウイルス感染対応については、消毒・検温の徹底を行っている。事業所・自宅訪問については、相手の意向を確認し、訪問出来ない場合は電話連絡や書面で情報共有を行っている。
- 職員体制変更により、一部相談件数を他の相談支援事業所に移管し、再編した。サービス利用場所が遠方の登録者もきめ細かな支援が難しいため、他の相談に移管している。

2. 筑紫地区地域自立支援協議会へ参加

【事務局会議】大野城市にて（1回/毎月）

事務局会メンバーとして。地域の福祉の現状や課題、今後の取り組みについて協議・検討する。

【権利擁護部会 事務局担当】（1回/2ヶ月）

弁護士・人権擁護委員とともに、地域の困難事例、人権問題案件について協議する。

【相談支援部会】（1回/2ヶ月）

相談支援事業所の連携構築と相談業務に関する課題や取組みについて協議・検討する。

【地域連携部会】（1回/2ヶ月）

医療と福祉をスムーズに繋げる「連携パス」の作成と活用について協議していく。

3. 請求実績

登録者数 令和3年度 125名（成人：91名 児童：34名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
新規	成人	2	0	2	1	0	0	0
	児童	3	0	3	1	0	3	0
更新 モニタリング	成人	27	19	22	17	23	22	19
	児童	8	3	7	3	1	7	7

		11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	成人	0	0	0	0	0	5
	児童	1	2	5	0	0	18
更新 モニタリング	成人	21	16	25	9	12	232
	児童	5	3	6	4	5	59

パルテールはまゆう 令和3年度 事業報告書

■ 共同生活援助

1,実施サービス (※令和2年10月より共同生活援助2ユニット化)

- ・共同生活援助①定員4名(女性) ・共同生活援助②定員6名(男性)

令和3年度利用実績(3月末実績)		
入居者数(総数)	① 3名	②6名 9名
新規入居者数	① 1名	②0名 1名
退所者	0名	

2,年間スケジュール

4月	5月	6月
・快適に共同生活するために必要なこと<研修> ・食事アンケート	・衣替え	
7月	8月	9月
・カラオケ、テレビゲーム (パルテール館内)		
10月	11月	12月
・衣替え ・ハロウィンパーティー ・筑紫野イオンモールで買い物	・大相撲観戦	・クリスマス会 ・大掃除
1月	2月	3月
	・バレンタインデー	・ホワイトデー

3,理念実現プラン

<利用者のために>

- ・入居者が増えた一方、他の入居者に対して不満をもつ方が増え、4月に全入居者でパルテールのルールについて、共同生活をする中で気をつけることを確認した。
- ・7月、外出イベントを開催することが難しかったため、パルテールの館内でレクリエーションを行った。2グループに分かれ、少人数でカラオケやテレビゲームを楽しまれた。
- ・10月、ハロウィンパーティーを行った。パルテールのイベントでは初めてで、ハロウィンの起源を全入居者で確認し、入居者思い思いのコスプレでレクリエーションに参加し、“トリックオアトリート”のかけ声でお菓子をもらい、喜んでいた。
- ・衣替えに関して、入居者に3つ(いるもの、いないもの、わからない)に分けていただき、その後、職員と確認した。
- ・大掃除は、去年に引き続いて全入居者で行った。各居室や共有の場を一緒に掃除し、“自分たちの住まい”の意識づけが深まり、入居者間で親睦が図れた。
- ・継続して新型コロナウイルス感染予防対策として、一日2回の検温や食事時間の調整、手洗い、うがい、ソリュションウォーターでの消毒の必要性を伝え、パルテール館内や外出先での注意点を確認した。(玄関に足ふみ式ポンプを設置し、消毒。外出用のソリュションウォーターボトルを各自に準備。)
- ・健康増進のため、全入居者の歯科検診を実施した。その後、定期的に通院して治療している。

<職員のために>

- ・ イベントを実施する際に、事前に職員間で内容を確認し、実施後振り返りを行った。
- ・ 入居者、職員に新型コロナウイルスの陽性の疑いがある場合の対応方法の確認を行った。
- ・ 出勤時の検温を習慣化し、月1回のPCR検査を行った。

<地域のために>

- ・ 地域のお祭りが開催されず、地域の行事に参加する機会がなかった。
- ・ 近隣住民宅の草取り、剪定などを通して良好な関係を築くことが出来た。

■短期入所

令和2年度利用実績(3月末実績)		令和3年度利用実績(3月末実績)	
契約者数(総数)	50名(男32・女18)	契約者数(総数)	48名(男32・女16)
新規契約者数	9名(男7・女2)	新規契約者数	4名(男3・女1)
平均利用者数(月)	5.1名/月	平均利用者数(月)	6.6名/月
平均利用泊数(月)	21泊/月	平均利用泊数(月)	28泊/月

《利用者数内訳》

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
9		8		7		11		5		7	
はまゆう	外部										
6	3	7	1	6	1	8	3	4	1	6	1
10月		11月		12月		1月		2月		3月	
6		7		6		5		4		5	
はまゆう	外部										
4	2	6	1	4	2	5	0	4	0	4	1

《利用泊数》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
31	29	28	45	30	37
10月	11月	12月	1月	2月	3月
30	26	24	20	18	24

- ・ 短期入所利用を通して、3月に1名本入居。
- ・ 2泊など連泊を希望する利用者が多く、利用泊数が昨年度より増えた。
- ・ 利用者によって、利用日を曜日で固定し、スケジュール表を作成して情緒面が安定した。
- ・ トイレの使い方(スリッパの向き、便座や便器の片付け方)の理解が難しい利用者も多く、サポートが必要だった。
- ・ 短期入所利用者の自立度に応じて、職員2名体制で対応し、利用者と一緒に物の整理(きれいなものと汚れたものを分けたり、洋服をたたむ)をしたり、入浴面でサポートを行った。

障がい児者地域生活支援センターはまゆう 令和3年度 事業報告書

1 支援センターはまゆうの取り組み

- ・要保護児童のいる家庭の居宅介護や長期入院または入退院を繰り返している方の地域移行支援、医療的ケア児など、行政や基幹より相談のあった丁寧な支援が必要なケースへ対応をすることで、本人やご家族が地域で安心して生活できるように取り組んでいる。
- ・担当者会議を開催し、学校関係者、医療従事者とも情報共有を図り、ZOOMを活用することで、状況に応じてクリニックの主治医など普段参加が難しい関係者との連携にも努めている。
- ・地域の課題把握に努めるため、自立支援協議会開催の会議へ出席。情報交換し連携を図っている。
- ・発達障害児者の地域における支援を強化するため、サービス利用のない方の相談にも対応し、情報提供を行っている。発達障害者のご家族の交流や情報交換の場として家族サロンを開催。

2 令和3年度実績

1)契約者数 367名(成人 209名、児童 158名) *R4. 5 末時点

2)請求実績

	令和3年度実績	令和2年度実績
請求額	15,969,050 (前年比+1,864,530)	14,104,520 (前年比+2,952,260)

令和3年度さつき会新規紹介実績 (ほっぶ 2名、じゃんぷ 2名、学院 4名、自由ヶ丘移行 1名、B型 1名、定着 5名)

3)年間請求件数一覧

【児童】

児童		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	新規	12	4	1	2	0	1	1
更新	21	14	3	14	11	15	14	
モ	22	30	26	10	17	19	18	
終了	0	1	0	0	0	0	0	
件数	164	167	168	170	170	171	172	

児童		11月	12月	1月	2月	3月	合計
	新規	2	2	0	0	0	25
更新	13	18	12	10	13	158	
モ	9	11	9	11	19	201	
終了	2	0	0	0	3	6	
件数	172	174	174	174	173		

【成人】

成人		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	新規	2	3	4	2	1	2	4
	更新	20	10	6	9	14	14	8
	モ	27	23	41	29	25	21	28
	終了	4	6	3	2	3	2	3
	件数	204	201	202	202	200	200	201

成人		11月	12月	1月	2月	3月	合計
	新規	2	4	1	3	3	31
	更新	8	6	6	13	14	128
	モ	19	36	31	21	33	334
	終了	0	6	0	0	0	29
	件数	203	201	202	205	208	

3 会議・研修参加

＜宗像市障害者自立支援協議会＞

- 令和3年度放課後デイ連携会議** 7月16日(金) 令和3年度第1回放課後等デイ・児発連携会議
 内容:虐待防止研修「児童虐待の発見と通告に関する関係者の役割と義務」
- 9月8日(水) 令和3年度第2回児童発達支援連携会議
 内容:年長児の就学に向けての連携について
- 11月11日(水) 令和3年度第3回放課後等デイ連携会議
 内容:放課後等デイサービス標準利用日数について、次年度活動内容
- 12月17日(金) 令和3年度第4回放課後等デイ連携会議
 内容:放課後等デイサービス標準利用日数、令和3年度報酬改定

- 令和3年度ネットワーク会議** 5月12日(水) 令和3年度第1回ネットワーク会議
 内容:自己紹介、災害時における障害児者への対応、令和3年度報酬改定
- 10月25日(月) 令和3年度第2回ネットワーク会議
 内容:モニタリング・計画追加の見直しについて、個別避難計画作成
- 2月14日(月) 令和3年度第3回ネットワーク会議
 内容:要支援者個別避難計画作成モデル事業について

＜令和3年度研修報告＞

- ・令和3年7月26日 13時30分～16時00分 リモート 先天性代謝異常症の理解と緊急時の対処について
- ・令和3年11月12日 14時00分～16時00分 リモート 就労支援機関における医療との連携
- ・令和3年12月15日 13時10分～16時30分 リモート 法テラス福岡における司法ソーシャルワークの実践
- ・令和3年2月7・8日 9時30分～16時30分 リモート 相談支援従事者専門コース別研修(人材育成)
- ・令和3年度相談支援従事者現任研修、令和3年度サービス管理責任者更新研修修了
- ・相談支援従事者初任者研修ファシリテーターとして参加

障害者就業・生活支援センターはまゆう

令和3年度 事業報告書

1. 事業概要

(1) 目的

宗像保健福祉圏域における障害者の雇用促進を目的として、就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供する。

(2) 事業内容

- ①就業面及びそれに係る生活面の相談・支援
- ②事業主に対する啓発・助言
- ③職場実習の斡旋
- ④連携会議の開催や関係機関との連携

2. 支援対象者

(人)

障害種別	身体	知的	精神	その他	合計
在職中	39	98	161	16	314
求職中	29	30	79	11	149
その他	12	38	78	5	133
合計	80	166	318	32	596

(年齢)

(人)

～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	合計
11	147	161	140	100	37	596

3. 新規利用経路

(人)

前年度末	593	
新規登録	57	
利用経路	直接利用	6
	ハローワーク	6
	相談支援事業所・行政	17
	就労移行支援	13
	就労継続支援 (A型・B型)	4
	特別支援学校	1
	病院	4
その他 (若者サポートステーション、一般校、専門学校)	6	
登録抹消	54	
本年度末	596	

(居住エリア) (人)

宗像市	福津市	遠賀郡	宮若市	新規合計
35	18	3	1	57

4. 相談支援件数

(手段別) (件)

センターへの来所	1057
電話・FAX・E-mail	3064
職場訪問	409
家庭・入所施設への訪問	175
オンライン	17
その他（ハローワークへの同行、ケース会議への参加等）	409
合計	5131

(内容別) (件)

	身体	知的	精神	その他	合計
就職に向けた相談・支援	105	342	1138	134	1719
職場定着に向けた相談・支援	67	282	664	40	1053
日常生活・社会生活に関する 相談・支援	52	487	345	30	614
就業と生活の両方にわたる 相談・支援	116	533	1007	89	1745
合計	340	1344	3154	293	5131

5. 実習の斡旋状況

(障がい別) (件)

身体	知的	精神	その他	合計
0	10	16	0	26

(職種別) (件)

事務・事務補助	6	コンテナ洗淨	2
店舗スタッフ	4	造園・ガーデニング	2
倉庫内作業員	4	バックヤード	1
清掃	3	クリーニング	1
調理補助	2	看護助手	1

6. 就職の状況

(障がい別)

(件)

身体	知的	精神	その他	合計
4	9	24	3	40

(職種別)

(件)

一般事務	11	営業補助	2
清掃	7	介護・介護補助	2
調理補助	4	洗車	1
コンテナ洗浄	3	食器洗浄	1
店舗スタッフ	3	自動車整備	1
作業員	3		

7. セミナーの開催・共催

※新型コロナウイルス感染症の流行により中止

8. 研修会・勉強会等の開催・共催

①福岡県障害者就業・生活支援センター合同セミナー

※新型コロナウイルス感染症の流行により中止

②福岡県障害者就業・生活支援センター合同勉強会

ア. 令和3年9月17日

はまゆうがホストとなり、リモートにて開催

イ. 令和3年12月17日（ふくふくプラザ）

③宗像市・福津市合同勉強会（リモート）

令和3年11月12日

講師：千早 ACT クリニック院長 渡部先生

相談支援専門員にも声をかけ、35名が参加された

9. 会議の開催

① 宗像市自立支援協議会就労部会（4回）

令和3年6月28日（宗像市役所）

令和3年9月30日（オンライン）

令和3年12月2日（宗像市役所）

令和4年3月7日（宗像市役所）

② 福津市支援連携会議（3回）

令和3年6月24日（福津市役所）

令和3年12月16日 勉強会（ほほえみ）

令和4年3月11日（オンライン）

10. 余暇支援等、当事者活動の状況

余暇についてはすべて中止した。

定例会（当事者サロン）は毎月第3土曜日の13～16時、サロン室を開放している。

参加者の思惑は居場所、話し相手、報告、話の組み立て方など様々であるが、ニーズは拾えている。

新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度に引き続き2部構成とした。

1部を13:00～14:25、5分間消毒・換気等を行い、2部を14:30～16:00とした。

電話での事前予約制として、急な中止に備えた。

11. 総括

登録者の見直しを毎年行うよう通達があり、前年度より取り組みを行っている状態。今年度の抹消者数が多いのは、その整理を行ったため。

リモートについては、その有用性が厚生労働省に認められ、次年度以降についてもコロナの有無にかかわらず使用できることとなった。

登録者への直接支援に関しては、電話だけでは感じ取ることのできない本人の表情が見える点、他機関との連携においては移動時間の短縮、制約の厳しい企業や医療機関との連携などで大きく今までと変化している。

また、研修への参加が手軽にできるようになり、20件近くの研修に参加できている。職員の質の向上に大いに役に立った。

研修を開催する側としても、講師へ依頼することが容易にできるようになったため、今後はニーズを集約していく必要があると感じる。

宗像市障害児通所支援事業所 げんきっこくらぶ ほっぷ

令和3年度 事業報告書

1, 実施サービス

(1) 令和3年度利用者数(令和4年3月31日現在)

放課後等デイサービス 27名 (既存登録者数 22名/今年度新規登録者数 5名)

【学校内訳: 古賀特別支援学校 24名/福岡特別支援学校 1名/日の里東小学校 1名/日の里西小学校 1名】

【学年内訳: 小学部 20名/中学部 5名/高等部 2名】

《 退所者数 1名/卒業者数 0名 》 → 次年度開始時の登録者数 26名

放課後等デイサービス重症心身障害児 4名 (既存 4名/新規 0名)

【学校内訳: 古賀特別支援学校 2名/福岡特別支援学校 2名】

【学年内訳: 小学部 1名/中学部 2名/高等部 1名】

《 退所者数 1名/卒業者数 0名 》 → 次年度開始時の登録者数 3名

児童発達支援 重症心身障害児 17名 (既存登録者数 0名/今年度新規登録者数 17名)

《 退所者数 2名(市外引越し)/卒業者数 5名 》 → 次年度開始時の登録者数 10名

(2) 月別利用人数/合計総数・利用平均数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/1日
放 デ イ	平日(177日)	174	184	222	142	1	42	208	196	189	113	127	103	1701	9.26
	土曜日(49日)	31	40	30	34	19	22	30	29	29	21	13	26	324	
	長期等(65日)	49	1	0	68	218	147	14	4	21	38	9	100	669	
	全日(291日)	254	225	252	244	238	211	252	229	239	172	149	229	2694	
放 デ 重 心	平日(177日)	14	17	19	13	0	2	14	18	15	12	13	8	145	0.95
	土曜日(49日)	6	7	5	5	4	6	6	6	6	5	4	6	66	
	長期等(65日)	5	1	0	5	19	11	6	2	3	2	1	10	65	
	全日(291日)	25	25	24	23	23	19	26	26	24	19	18	24	276	
児 発	平日(227日)	14	33	41	39	34	41	47	41	45	41	35	43	454	2.0
計	全営業日	293	283	317	306	295	271	325	296	308	232	202	297	3424	12.21

2, 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月
・児童発達支援事業「はっち」開所	・避難訓練(ほ)	・職員研修①&②「基礎感覚(DVD)」	・5者会議 ・囁託医会議 ・職員研修③「基礎感覚(DVD)」 ・宗像市虐待防止研修 ・放デイ連携会議 ・児発連携会議	・水遊び活動 ・交通安全教室(ほ) ・発達理解研修(ほ)	・臨時休校対応 ・避難訓練(ほ) ・児発連携会議
10月	11月	12月	1月	2月	3月
・福岡県障害児者美術展 習字出品 ・5者会議 ・サビ児管更新研修 ・キャリアパス ・初任者研修 ・ハロウィン ・地域交流(ほ)	・親子交流グランピング(ほ・は) ・イルミネーション ・点灯式(ほ) ・放デイ連携会議	・6者会議 ・放デイ連携会議 ・保育所等訪問連携会議 ・キャリアパス ・中堅職員研修 ・囁託医会議 ・クリスマス会(ほ) ・人権週間作品展出品	・初詣(ほ) ・のぞみ園 ・合同勉強会(ほ) ・記録技術研修 ・法人虐待防止研修 ・法人班長主任研修	・臨時休校対応 ・苦情解決従事者研修 ・放デイ連携会議 ・来年度事前検討会 ・バレンタインデー ・地域交流(ほ) ・父親療育の日(ほ) ・自動水栓化工事	・囁託医会議 ・6者会議 ・ホワイトデー ・地域交流(ほ) ・アレルギー研修 ・進級式(ほ)
※放課後主活動: リトミック(1週目)、工作活動(2週目)、サーキット(3週目)、レクリエーション活動(4週目) ※土曜日主活動: 紙漉き(1週目)、習字活動(2週目)、音楽療法(3週目)、クラブ活動(4週目) ※児童作成の工作カレンダー配布先: 介護老人保健施設 よつづか、特別養護老人ホーム 城山之荘、宗像ユリックス、宗像ボランティアセンター、おもちゃ図書館、宗像市発達支援センター のぞみ園 ※児童の活動写真カレンダー配布先: 介護老人保健施設 よつづか、特別養護老人ホーム 城山之荘、近隣宅 5件					

3, 理念実現プラン

【利用者のために】

【ほっぷ(放デイ&放デイ重心)】

- ・お約束事ボードや絵カードのアイテム数を増やし、児童への見える化を進めた。始めの会でお約束事ボードの内容を読み上げ、声の大きさ等のルールを全員で復唱する習慣を作る事ができた為、ルール定着を更に行う事ができた。また、マスクの適切な着用方法を図示する事で、マスクのズレに意識を向けて付け直す練習機会を設ける事ができた。
- ・放デイ登録児の約4分の1が歩行に課題を要しており、PT職員による専門的な訓練として、マット上でのストレッチ、歩行訓練、腹臥位での筋緊張ほぐし、上肢の神経・筋緊張への促通法等、それぞれの児童に合ったリハビリメニューを提供した。また、今後のより良いサービス提供の為に、年度末に平行棒付き歩行階段を購入した。
- ・げんきっこくらぶ じゃんぷへの移行を目指し、児童には机上課題等に取り組んでもらった。今期は中学生1名がほっぷを卒業し、じゃんぷへステップアップした。

【療育ルーム はっち(児童発達)】

- ・昨年度までの児童発達支援事業は重症心身障害児のみ対象であったが、のぞみ園の児童数過多の状況を鑑みた宗像市と社会福祉協議会から依頼を受け、年少児以下の集団クラスを受け持つ事となった。対象種別も重心児〜軽度の発達遅滞の児童まで幅広く受ける形態とし、4月19日より「療育ルーム はっち」としてリニューアルオープンした。
- ・母子登園という長所を生かし、事業所内活動で気になる事やアイデア等を提案して頂き、保護者と共により良い環境を児童に提供することができた。また、家庭の困り事に毎回解答する形式の連絡ノート体制を確立し、欠かさず運用した。
- ・七夕工作、水遊び活動、スノードーム工作、野外ランタン工作、リース工作、クリスマス装飾活動、鏡餅作り(小麦粉粘土)、紙飛行機工作、カード工作など、母子で取り組める遊びを随時取り入れ、季節感も大事にした活動提供に務めた。
- ・上半期で児童が活動に慣れてきた為、下半期より「ルールを取り入れた活動」を展開した。絵カードを使用しながら簡単なルールから取り組み始めて次第にルール数を増やすことにより、活動の幅に広がりを作ることができた。
- ・2月に「父親療育の日」を実施した。日曜日に特別開所して父子で療育に参加して頂き、母親にはレスパイトを、父親には児童の関わり方を見せて頂き、学ぶ場を設ける事ができた。

【ほっぷ・はっち共通事項】

- ・放デイと児発を利用する児童や保護者が集う親子イベントとして、今年度は「親子グランピング」を実施した。館内の換気や消毒等の対策を講じた上で開催し、食事はテーブルを複数に分けて密にならないよう配慮し、ビュッフェ形式で行った。終盤には各サービスの活動報告を行い、写真を見ながら日頃の様子を知って頂く機会を設けることができた。
- ・台風接近時や新型コロナウイルス対応時の際の連絡手段は、これまでは電話で行う事が多かったが、営業時間外は電話が繋がらない等のご意見が出ていた。この課題を解消する新しい連絡体制を目指し、今年度よりさくら連絡網を導入した。本メーリングシステムは東日本大震災時でも機能が止まることがなかった実績があり、確実に連絡することが可能な仕組みを備えている為、これまでよりも格段に早く一斉連絡をとる事ができるようになった。
- ・宗像市福祉課より、新型コロナウイルス対策の一環として、市の全委託事業所の蛇口を自動水栓化する取り組みのお話を頂いた。これにより、手動式だったトイレ洗面台の蛇口が全て自動水栓となった。また、福祉課のご配慮で、自動石鹸供給栓3基を合わせて設置して頂いた。
- ・9月の臨時休校の際は陽性者も濃厚接触者もおらず、早朝より開所し対応することができた。しかし、2月の臨時休校の際は、陽性者や濃厚接触者が身近な所から出たことにより、既存の判断基準では休校児童の受け入れが難しい状態となった。保護者からもコロナ禍の影響で休校・学級閉鎖が増えて困惑しているとご意見があった事から、濃厚接触者の定義緩和時に宗像市福祉課に助言を頂きながら基準の考え方を再検討した。結果、強制力のある自宅待機要請を受けていない児童に対しては、健康面に問題が無ければ慎重な考慮の上で受け入れ検討ができる基準を得る事ができた。

【職員のために】

- ・コロナ禍で研修機会が少ない事を懸念し、昨年度購入の教材DVDを使用して内部研修会を行った。DVDは全3回に渡り内容も充実しており、密を避ける形で少人数毎に繰り返し実施し、全現場職員が研修機会を得る事ができた。
- ・後期になるにつれてリモート形式での外部研修会が開催される様になった為、積極的に参加した。開催場所が遠い理由でこれまで参加できなかった研修会にもリモート参加できたことは、研修のあり方が変わったメリットであり、次年度も積極的に参加していき、事業所内で情報共有していきたい。

【社会のために】

- ・第4週目の土曜日活動を『くらぶ活動』へと変更し、壁面作品を作る「工作くらぶ」、畑や花壇のお世話をする「園芸くらぶ」、宗像市内のごみ拾いを行う「地域清掃くらぶ」、高齢者施設等に工作カレンダーを配布して回る「地域交流くらぶ」等を実施した。月毎に2〜3クラブの実施を設定し、児童も各クラブに数名毎に分かれて取り組んでもらった。地域清掃では10、11、2、3月頃を中心に児童がグリーンネットとトングを持って地域のごみを集め、環境課の方に回収して頂いた。地域交流では、コロナ禍で郵送でのお渡しになる事もあったが、高齢者施設や関係機関へのカレンダーやお便りの配布を今年度も毎月実施する事ができた。今期は高齢者施設の皆様からお礼のお便りを頂く事ができた。
- ・地域交流イベント「ハロウィン・バレンタインデー・ホワイトデー」を今年度も近隣住民の皆様のご協力で開催する事ができた。コロナ禍で直接のお渡しに難しい部分もあったが、事前に手紙をお渡ししたり、玄関先にプレゼント置き場を作って頂いたり、様々な工夫を凝らして、児童・近隣住民の皆様どちらも楽しんで頂ける機会を作ることができた。
- ・今年も交通安全教室を開催し、4年連続で宗像警察署の方にご協力頂いた。今年は交通安全協会の方も視察に来て頂いた。
- ・福岡県障がい児者美術展に今年も習字作品を出品した。また、宗像市人権週間に児童の共同習字作品を出品した。
- ・宗像市において、放デイ連携会議、児童発達支援連携会議、保育所等訪問連携会議が合わせて7回、リモート等で開催された為、毎回参加した。また、宗像市の福祉課、子ども支援課(発達支援室)、障害者生活支援センター、のぞみ園、ほっぷで構成された5者会議(更に子ども育成課を加えて6者会議)に4回全てに参加した。宗像市の児発事業(はっち含む)や保育所等訪問支援事業等の浸透化の為に仕組み作りや仕掛けに向けて児童福祉施設代表として意見を出した。

げんきっこくらぶ じゃんぷ

令和3年度 事業報告書

1, 令和3年度利用者数(令和4年3月31日時点)

(1) 登録者数 19名

【学年内訳： 中等部 8名/高等部 11名】

(中学1年：2名 中学2年：3名 中学3年：3名 高校1年：3名 高校2年：3名 高校3年：5名)

【学校内訳： 古賀特別支援学校 16名/福岡高等学園 1名/河東中学校 2名】

(2) 開所日数/月毎利用人数/平均利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	20	22	21	21	18	22	21	20	19	18	22	245
月毎利用人数	89	91	125	128	87	91	138	132	118	114	106	106	1325
平均利用人数	4.0	4.6	5.7	6.1	5.8	5.0	6.3	6.3	5.6	5.7	5.6	4.6	5.44

2, 年間スケジュール ※当月の活動予定を前月に配布し、活動内容を明確化して保護者・利用者の満足度や安心感を高めることに繋げる。また月ごとにテーマを設定しそのテーマに沿って意識高く活動を行う。

4月【春休み】	5月	6月
手先の器用さを磨き、作品を作ろう	グループワークを通して友達の見聞を聞こう	衛生管理を学ぼう
<ul style="list-style-type: none"> ・春休み活動（就労体験・余暇活動） ・地域ボランティア活動 ・児童部門会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・さつき祭り（オンライン） ・事業所新聞作り ・児童部門会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施
7月【夏休み】	8月【夏休み】	9月
熱中症対策について	就労に向けて	自分のことをもっと知ってもらおう
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み活動（就労体験・余暇活動） ・夏祭りの実施（ほっぷ合同活動） ・児童部門会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み活動（就労体験・余暇活動） ・書道教室の実施（書道コンクールに出展） ・福岡女子大学見学ツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練
10月	11月	12月【冬休み】
集中力UP	芸術の秋、運動の秋を満喫しよう	寒さに負けない身体づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・ハロウィン活動 ・ウォーキングイベントの開催（宗像大社～道の駅） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・パレットピクニックの実施（販売体験の実施） ・親子イベント（グランピング）の実施（ほっぷ、はっち合同） 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休み活動（就労体験、余暇活動） ・クリスマスイベントの実施 ・児童部門会議の実施
1月【冬休み】	2月	3月【春休み】
「1年の計は元旦にあり」 1年間の目標、計画を立てよう	卒業生に感謝を込めてプレゼントを作ろう	就労に向けた練習を頑張ろう
<ul style="list-style-type: none"> ・冬休み活動（就労体験・余暇活動） ・児童部門会議の実施 ・書初め教室の実施 ・さつき学院合同活動(食進会料理教室) ・児童部門会議の実施 ・虐待研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部門会議の実施 ・節分、バレンタイン活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・春休み活動（就労体験・余暇活動） ・避難訓練 ・パレットピクニックの実施（販売体験の実施） ・卒業イベントの実施

3. 実施報告

【利用者のために】

《就労体験の実施》

- ・同法人内の就労施設（はまゆうワークセンター宗像、はまゆうワークセンター自由ヶ丘）にて長期休暇等を利用し、就労体験を行った。各就労施設の特色を活かした作業等を経験することができ、将来の就労意欲の向上と、児童の対応力を伸ばす機会になった。

また今回より、積極的に施設外での実習（農作業、除草作業等）にも参加し、利用児童の作業能力の向上に繋げることが出来た。

《書道教室の実施・作品の出店》

- ・年に2回書道経験豊富な職員による書道教室を実施。児童の自由な発想を活かした書道の作品をコンクールに出展し令和3年度は2名の児童の作品が入選し表彰を受けた。

《室内活動の充実により、生活能力の向上や児童同士のコミュニケーションに繋げる》

- ・コロナ禍の為、外出活動が制限されることが多かったが、その分室内での活動充実させることに繋がった。特に勉強会やグループワーク、室内での模擬金銭管理練習（買い物活動）を通して、生活能力の向上に繋げることが出来た。

《他事業所との合同活動の実施》

- ・長期休暇を利用し、児童部門（げんきっこくらぶ ほっぷ・げんきっこくらぶ じゃんぷ）での合同活動を行った。夏祭り等を行い、楽しみながら活動する中で児童同士の交流を図ることに繋がった。また「さつき学院 宗像キャンパス」と合同活動を行い、児と者の交流を図る活動を行うことができた。

（令和2年度に引き続き、宗像市食生活改善推進会の方による料理教室を行った）

【職員のために】

《アイデアの具現化》

- ・コロナ禍で活動が制限される中、アイデアを出し合い顧客満足度を高める活動に繋げることができた。またアイデアを具現化することで職員のモチベーションアップにも繋がった。

《法人内の他事業所との連携強化》

- ・法人内の各事業所との繋がりを持つことで職員間の交流や助言を受ける機会を作ることができた。

《研修》

- ・法人内研修にて、パート職員も参加をお願いし、虐待研修を行い、各職員の自己研鑽に繋げることができた。

《児童部門会議の実施》

- ・児童部門会議（「げんきっこくらぶ ほっぷ」「げんきっこくらぶ じゃんぷ」「げんきっこくらぶ る一つ」）を行うことで、円滑な情報共有と他事業所の価値観を受け入れ活動等を見直す機会になった。

【社会のために】

《ノーマライゼーションの実現に繋げる活動》

地域の資源を活用した活動や、法人主催のイベント（パレット・ピクニック）に積極的に参加し販売体験等を行うことで地域の人との交流を図ることができた。

《一般中学校の児童の受け入れ開始》

令和3年度より地域の一般中学校の児童も積極的に受け入れた。地域に求められる、地域に根付いた事業所に近づくことが出来た。また、別の学校同士の児童が当事業所で一緒に活動することで、学校間の垣根を越えた児童同士の関係作りを行うことが出来た。

《障がいがある人の高校卒業後選択を増やす》

じゃんぷの卒業生が福祉型学校「さつき学院 宗像キャンパス」に入学し、高校卒業後の進路の選択肢を増やすことができた。また令和3年度の卒業生の内1名が福津市内の一般企業に就職が決まり他児童の目標となることが出来た。

げんきっこくらぶ ひとつ
令和3年度 事業報告書

【実施サービス】

- ◇児童発達支援事業 (定員 10名)
登録児童数 30名 (令和4年3月末現在)
- ◇保育所等訪問支援事業 (定員 1名)
登録児童数 1名 (令和4年3月末現在)

《利用児童園 (13園)》

浄徳寺幼稚園 / 野ばら保育園 / 東海大学付属自由ヶ丘幼稚園 / 日の里幼稚園
東郷信愛幼稚園 / 博多のびっこ幼稚園 / ひかり幼稚園 / 西海保育園
赤間保育園 / 日の里西保育園 / 野ばら第二保育園 / 玄海風の子保育園
赤間くるみ幼稚園

●開所日数/月毎利用人数/平均利用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	-	18	22	22	19	21	22	17	20	20	18	23	204
月毎利用人数	-	-	47	64	82	105	136	102	124	133	117	136	1046
平均利用人数	-	-	2.1	2.9	4.3	5	6.2	6	6.2	6.7	6.5	5.9	5.1
【保訪】利用回数	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2

＜利用児童のために＞

- ・毎月、「食育」「運動療育」「生活動作」「工作」と週ごとに活動を分け様々な活動を提供した。色々な体験を通して五感の育成、他児童との関わり方や思いやりの心を学んでもらった。

上半期	4月	5月	6月	7月	8月	9月
食育	-	-	ひのさと48 畑探検	おにぎり作り	お弁当 ペープサート	さつまいも 掘りごっこ
運動療育	-	-	体幹 トレーニング	室内 アスレチック	的当て	ボール運び ゲーム
生活動作	-	-	洗濯ばさみ 遊び	ジュース屋 ごっこ	新聞紙遊び	お盆運び ゲーム
工作	-	-	紙相撲大会	紙皿サンバイザー 作り	スイカの 首飾り作り	柿ヨーヨー 作り
下半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食育	かぼちゃの観 察	サンドイッ チ作り	トライフル 作り	どら焼き作り	なかみはな んだゲーム	花見
運動療育	ハロウィンイ ベント	新聞紙遊び	新聞紙遊び	だるまさんが 転んだ	的あて	魚釣りゲーム
生活動作	腹巻通し ゲーム	洗濯ばさみ 遊び	洗濯畳み	旗揚げゲーム	はらぺこあ おむし	交通安全につ いて
工作	ハロウィン ミニバック作り	どんぐり マラカス	クリスマスツリー づくり	だるまさんが 転んだ	雪だるま メッセージ カード作り	貼り絵 (卒業イベン ト)

- ・コロナ禍に伴い、他事業所が閉所対応・短縮営業する中、児童がご家庭に引き籠らないように、また仕事をされているご家族が安心して仕事ができるように短縮等の対応は取らずに、ご家族に寄り添う形で開所し、受け入れ体制を整えた。
- ・年少・年中・年長のそれぞれの児童に合った椅子や机を提供した。
- ・集団療育、個別療育で特色を分け、療育を行った。
- ・る一つに来てからのルーティン(靴を仕舞う、水筒を出す、荷物を仕舞う、手を洗う、シールを貼る)を決め、毎回促すことで、切り替えの練習を行った。
- ・親子イベント『ひのさと 48 を体験しよう』(ペインティング、カフェ『みどり to ゆかり』弁当体験)を11月21日に実施。ご両親、兄弟児、祖父母も含めて、13家族40名を超える方々にご参加いただいた。
- ・連絡ノートを活用し、ご家庭より日々の様子、事業所より療育の様子を伝える等、情報共有を行った。
- ・連絡アプリ『さくら連絡網』を使用し、保護者との連絡しやすい環境を作り、児童の変化や利用変更、またる一つからの連絡等を柔軟に行った。
- ・発達の遅れのある児童に対する保護者の育児上の不安解消の為、お迎え時や別に時間を設け、相談援助を積極的に行った。
- ・幼稚園、保育園等でコロナ感染があった際に、その都度、濃厚接触者にあたるかなど感染状況を確認し、出来る限り療育を継続した。
- ・通所日の療育内容が保護者へ伝わりやすいように、活動の内容と、その日の活動写真を厳選して、コルクボードに掲示した。また活動内容は、掲示以外に、A6サイズで印刷を行い、保護者に持って帰れるようにした。
- ・法人全体の広報誌『さつきだより』と別に、る一つ広報誌『る一つうしん』も発行し、職員紹介やる一つに特化した広報を行った。

<職員のために>

- ・月に1度、職員会議を実施し、利用児童のケース検討や行事の起案等について話し合った。
- ・パート職員も入れての全体会議も行った。またパート職員にも療育内容を考えてもらったり、集団療育で進行を行ってもらったり、職員全員が主体的に関わる仕組み作りに努めた。1
- ・管理者と週一回定期的に打ち合わせを行い、相談体系の強化を図った。
- ・職員間で情報共有の「見える化」を行う。ホワイトボードを購入し、その月の予定を記入し、職員間で情報共有を行う。
- ・県や市のPCR検査を定期的な実施やワクチンの優先接種を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めた。

<社会のために>

- ・宗像市内の幼稚園、保育所、こども園へ送迎や見学等で園へ出向き、積極的に連携を図った。
- ・日の里団地の再開発プロジェクト『さとづくり48プロジェクト』に参画し、事業運営のみではなく、地域課題解決に向けて、他企業との連携強化に努めた。
- ・オープニングイベントや雑誌取材、TV取材、Facebook番組出演など幅広く事業所のことを知ってもらう機会を設けた。
- ・日の里中学校からの『ひのさと48』取材活動の受け入れも行い、中学生達に事業のことを知ってもらえた。
- ・1階のひのさとブルワリー(ビールブルワリー)とコラボして、さつき会ラベルのビールを販売した。
- ・おもちゃライブラリーや宗像市民図書館(宗像ユリックス内)で毎月おもちゃと本を借りることで、社会資源の活用を行った。
- ・ハロウィンイベントでは、ひのさと48内のテナントのご協力いただき、カフェやブルワリーなどを練り歩き、テナントの方々との交流を行った。

ライフアップはまゆう 令和3年度 事業報告書

1,実施サービス

■共同生活援助

令和3年度利用実績(3月末実績)	
ホーム1:サニーヒル	6名/7名
ホーム2:シーサイドヒル	5名/7名
ホーム3:フローラ	7名/7名
ホーム4:リーベル	3名/6名 (うちサテライト型住居:1名)
入居者数(総数)	21名(男12・女9)/27名
新規入居者数	5名
退所者	2名

《区分割合》

障害程度区分	サニーヒル	シーサイドヒル	フローラ	リーベル
1以下	0名	0名	0名	0名
2	1名	1名	3名	2名
3	0名	1名	2名	1名
4	2名	3名	2名	0名
5	3名	0名	0名	0名
6	0名	0名	0名	0名

■併設型短期入所(定員1名)+空床型短期入所(各ホーム)

令和3年度利用実績(3月末実績)	
契約者数(総数)	2名(男1・女1)
平均利用者数(月)	0.4名/月
平均利用泊数(月)	2.3泊/月

《利用者数内訳》

4月	5月	6月	7月	8月	9月
8	0	0	0	0	0
10月	11月	12月	1月	2月	3月
0	2	0	4	6	7

2,年間スケジュール

4月	5月	6月
・ 歓迎イベント	・ 食事会	・ 小グループイベント①(風船スクイーズ)
7月	8月	9月
・ 小グループイベント②(サイクリング)	・ 食事会 ・ 手持ち花火大会	・ 小グループイベント③(水風船スタンプ) ・ 小グループイベント④(ウォーキング) ・ 避難訓練
10月	11月	12月
・ 合同食事会&フローラ内覧会 ・ 内覧会 (外部向け)	・ 大掃除(シーサイドヒル)	・ クリスマスディナー ・ 食事会
1月	2月	3月
	・ 防災教育	・ 避難訓練 ・ 忘年度会

3,理念実現プラン

<利用者のために>

- ・ 各入居者に聞き取りを行い、それぞれの課題やニーズを確認した上で、個別支援計画書の作成を行った。また必要に応じて保護者を含めた面談も実施した。
- ・ 少人数での活動やホームごとでのイベントを主に、内容や場所を工夫して余暇活動を提供した。また、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しつつ、ホーム合同での余暇活動も提供し、可能な限り入居者同士の交流を図った。
- ・ 希望する入居者については、職員が付き添い、日用品等の買物引率を行った。
- ・ お盆や年末年始などの長期休みには、テイクアウトを利用して、帰省のない入居者に向けた食事会を開催した。
- ・ 手持ち花火大会やクリスマス会など季節に合ったイベントを行った。
- ・ 避難訓練を実施し、入居者・職員ともに火災が起こった時に迅速に動けるよう、避難経路の確認をした。
- ・ フローラ建て替えのため、一時的な住まいの場の提供、建て替え後の環境整備に配慮した。無事に11月より新設ホームにて生活を開始することができた。またフローラ、リーベルと2ホームとしての運営を開始し、男性棟(7名)・女性棟(7名)と分けることで、女性棟のニーズが高く、女性棟はすぐに満床となった。
- ・ 対人関係で課題を多く抱えていたサテライト型住居入居者が、フローラ建て替えに伴い、ホームの特色の変更もあり、集団生活に戻ることができた。またそれに伴い、かねてから希望していた入居者がサテライト型住居での生活を開始した。一人暮らしを目標にしており、移行についての準備を進めている。

<職員のために>

- ・ 月に1度、職員会議を実施し、利用者のケース検討や行事の起案等について話し合った。また、職員会議の議事録を全職員に回覧し、情報の共有を強化した。
- ・ 管理者と週一回定期的に打ち合わせを行い、相談体系の強化を図った。
- ・ グループウェアを活用して、事業所内のみならず他事業所とも迅速に入居者の状態等について引継ぎが出来るような仕組みを作り、情報共有や早期対応に努めた。

<地域のために>

- ・ フローラの建て替え完了後、地域に向けた内覧会を実施し、障がい者のグループホームについての周知を図った。
- ・ 陵巖寺地区のゴミ回収場所がゴミで溢れかえっており、フローラ/リーベル開所に伴い、自治会と協議を行いながら、法人負担で、新規で回収場所の増設を行った。地域の方々より感謝の言葉をいただいている。